

親から地域社会へのパトントンタッチ
「～まっちゃん社会自立をめざす～」
冊子お披露目&松の木プロジェクト3年目セミナー



障害基礎年金
申し立てワークショップ



手をつなぐ
 とやま

第186号

富山県手をつなぐ育成会
 富山市安住町5-21
 富山県総合福祉会館内
 TEL 076-441-7161
 FAX 076-441-7255
 mail toikusei@minos.ocn.ne.jp
 HP http://toyamaikusei.jp/

発行責任者
 平野 幹 夫

みなさんの会報です
 よく読みましょう

仲間同士で作りあげた
新しい冊子が完成しました!



— 差別ない 心で広げる 豊かな社会 —

事業所部会
職員研修会



全国大会に参加しました
(本人大会参加者)



..... 第186号

- 冊子が完成しました!
- 「松の木プロジェクト」3年目のセミナー
- さあ、あなたの「松の木プロジェクト」は何から?
- 「松の木プロジェクト」と私
- 全国大会・東海北陸大会
- 障害年金WS・事業所部会
- 令和5年度賛助会員名簿
- 育成会の動き

「松の木プロジェクト」は、何から？

富山県育成会 権利擁護推進委員会委員長
富山市育成会 副会長 社会福祉士 細川 瑞子

皆さんのお手元に、親たちの叡智を集めた「まっちゃん冊子(まっちゃん社会自立をめざす対話編)」が届きましたでしょうか？

2018年に始まった「親亡き後研究事業」は、「子どもの将来が心配でならない」と不安を抱えた親たちが、県内4エリア(各25人、年2回以上)で取り組みました。勉強し、話し合う中で、親として「知っておきたい」「考えたい」ことが次々と明らかになり、自分たちで、親の「不安」を3つ(「出口」「引継」「安全」)に整理し、「始めたい」ことも明らかにできました。同時に、本人こそが「人生の主人公」と気づいた親たちは、「親亡き後」を待たず、本人を適切な時期に「社会自立」させることが「子育ての目標」であることにも

気づいたのです。

そのため、53人の本人にヒアリングを行いました。その結果、親と暮らして通勤・通所している本人は、楽しく毎日を過ごしているものの、「生活全般の管理能力(お金・情報・その他)が不十分」であり、「危機管理能力がない」という「障害特性」があると分かり、「親亡き後」には、「親に代わる生活全般の管理人(後見人)」が必要であり、しかも前もって、親から後見人へ「引継」いでおけば安心、と気づいたのでした。

3年目は、コロナ禍に突入し、活動を自粛。一旦、立ち止まり、まずは2年間勉強してきた結果を他の親たちに知らせたい、「仲間と共有したい」との思いで、「親向けブックレット」と「本人向け

リーフレット」を作成しました。これらは皆さんのお手元にあるはずですが、目を通されましたか？ その後の「松の木プロジェクト」活動と名付けた実践活動は、コロナ禍が続き、各支部では盛り上がりや欠きました。

再スタートを期して、親たちは昨年度、県内の仲間から事例を集めて「ミニガイドブック」作りに取り組みました。

仕上げは、昨年11月に行った合同研修会です。四方理事長を先頭に、理事・支部長・障害者相談員、権利擁護推進委員など、育成会幹部が参加し、本人の年代別に、その時その時、親は何をやっておけば良いのかを考える事例案や、年代毎のキーワードが適切かどうか、内容を練り上げるグループワークに取り組みました。年代別の各コメントもグループ毎に考え、練り上げました。



そして出来上がったのが、「まっちゃん社会自立をめざす対話編」(通称「まっちゃん冊子」)です。元日の能登半島地震を乗り越え、今年2月には、何とかお披露目セミナーにこぎ着けました。

さて「まっちゃん冊子」には、各年代の課題キーワードとともに、本人の6つの年代毎に各5事例、計30の事例が掲載されています。その年代の親の問いに、先輩の親と一緒に考える形で、仲間の力で問題解決を図るエンパワメントを目ざしています。ぜひ、目



を通して下さい。

この6年間を振り返ると、親たちが積極的に参加し、話し合ったことで、次々と課題が見えてきて、目標である「本人の社会自立」と「親から地域社会へのバトンタッチ」が明確になりました。活動に参加することで、親たちの意識改革が進み、活動する原動力となり、行動改革も進みつつあります。

「松の木プロジェクト」は、活動団体である富山県育成会の大きな成果であり、「まっちゃん冊子」と「親向けブックレット」「本人向けリーフレット」は、今後の私たちの活動のための財産です。皆さん、3冊を手にした今、自信をもって、新たな活動のスタートを切りましょう。

うれしいことに、民生委員の方たちとの合同研修会が実現しましたし、地域の方たち、若い親たち、本人たち、そして他の障害の親たちへも、「松の木プロジェクト」はジワジワと拡がりつつあります。

さあ、あなたの「松の木プロジェクト」は、何から始めますか？

「松の木プロジェクト」と私

プロジェクトチームの一員として、
笹井 信輝 (婦中生活介護事業所つじ保護者会所属)

私の娘は現在33歳です。重度の知的障害と、7年ほど前に自傷行為が原因と思われる網膜剥離を発症。2度の手術を受けるも、ほぼ光を失ってしまった視力障害者でもあります。

私自身、健康上のこともあり、11年前に60歳で定年退職し、現在71歳になろうとしています。定年退職後は娘の通所施設への送迎から必然的に保護者会と育成会に係わるようになり、現在に至っています。その間、単なるメッセンジャー役でしかなく消極的でした。当然、保護者会と育成会をつなぐパイプ役には到底足りていない状況でした。

そんな中、市育成会から当プロジェクトチームの一員として活動してほしいとの依頼を受け、グループワーク等に参加せざるを得なくなりました。参加当初、当プ

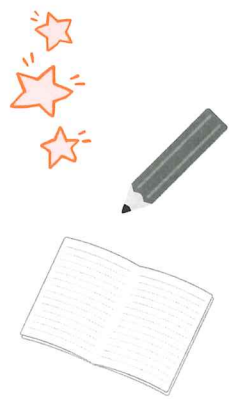
ロジェクトの中心的存在の細川さん(市育成会副会長)の「半端ない熱量」に圧倒され、「こんな自分でいいのか」と正直、尻込みし後悔したことを記憶しています。自身、「親亡き後」については、当然直面する最重要課題であるにもかかわらず、ただ漠然とした考えだけでしか受け止めていなかったように思います。

具体的にどうしていかなければならないのか、正直なところ分からず、不安と焦りだけがうっ積していったことは確かでした。今現在、チームの仲間と背中を押されながらも、当プロジェクトの一員として活動させてもらっています。

その活動を通して、今一番感じていることは、それぞれの境遇は違っても、ともに集い、ともに共通の課題について悩みや不安を言め話し合えることです。

私にとっては新鮮な感覚でした。その中でも、市育成会総会で「松の木プロジェクト」の一員としてそれぞれの体験と「松の木プロジェクト」と題し、発表する機会を与えてもらったことです。内容的には乏しく、障害を持つ「家族」としての出来事が中心でしたが、今まで自身の思いについて話すことをどこか避けていた所もあり、発表に際し、つい感極まってしまいました。今思えば恥ずかしい気持ちですが、いい機会を与えていただき感謝しています。

私自身、「親亡き後」について、まだまだやらなければならぬことが多いですが、一歩一歩、確かな歩みで前進していきたいと思えます。そして、「まっちゃん」の目指す自立(成長)と共に、親としても成長していければと思います。



～親から地域社会へのバトンタッチ～

冊子「まっちゃん社会自立をめざす対話編」が完成しました!

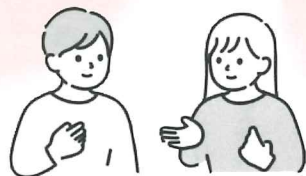
先輩たちが出会い、悩み、乗り越えてきた事例がいっぱい。年代毎にぶつかる課題を、仲間と一緒に話し、考えてみませんか?



A. 成人前に考えておくこと、やっておくこと

事例キーワード ... 子育ての目標は、子の「社会自立」

- ① 外出/移動の安全・マナー
② 本人確認が厳格になる通帳が作りにくくなった
③ 障害基礎年金の取得
④ 扶養共済制度
⑤ 本人の意思が大事



B. 成人後、20歳代で始めたいこと

事例キーワード ... 社会自立には、毎日の「生活と心の安定」

- ① 社会自立への準備を始めよう
② お金の管理と生活習慣
③ 心の安定で親元から新たな一歩
④ 親離れより子離れが問題
⑤ スマホやネットは便利だが

C. 30歳代にやっておきたいこと

事例キーワード ... 「親離れ・子離れ」の準備は「記録から」

- ① 将来は入所施設か?
② 自立の時期は?
③ 親の管理の引継ぎ
④ 自主的な行動を促すエンパワメント
⑤ きょうだいを上手に育てよう



D. 40歳代は、親なき後を考えよう

事例キーワード ... 「後見」と「遺言」で、親も子も安心

- ① 後見も遺言も、自分で期限を考えよう
② 後見人は次世代、きょうだい?
③ 父母・家族で考え、話し合おう
④ 日常生活自立支援事業は役立つ
⑤ 自立にはプロセスが大事

E. 50歳代は、共依存に注意

事例キーワード ... 「相談支援」とつながり、危機への準備を

- ① 体感治安の悪化
② 親族も第三者も、後見人との信頼関係が大事
③ 障害者の老化も心配
④ もう何も決められない
⑤ 一人暮らしを目指し



F. 思い立ったら始めよう

事例キーワード ... 親も子も、仲間が大事、地域が大事

- ① 仲間の存在が大事
② 本人部会の継続を
③ 地域と、民生委員さんとつながろう
④ 社会自立とは?
⑤ 思い立ったが吉日



守る人権 明るい未来

親から地域社会へのバトンタッチ 冊子お披露目& 松の木プロジェクト3年目セミナー

松の木プロジェクト

障害のあるお子さんの年代別に、自分たちがこれまで出会い、悩んだ経験をまとめた事例集「まっちゃん社会自立をめざす対話編(通称・まっちゃん冊子)」が完成しました。権利擁護推進委員会を中心に、事例を集め、内容を検討し合った、仲間同士の叡智を集めた冊子です。

2月24日(日)、この「まっちゃん冊子」のお披露目を兼ねたセミナーを富山県育成会と共催で開催したところ、学齢期をはじめ、様々な年代の方にご参加いただきました。

年代毎に出会いがちな課題に 仲間と一緒に向き合おう

まず、仲間同士での勉強会「松の木プロジェクト」を牽引する細川瑞子さんから、この冊子作成に至った経緯、そして活用方法として、仲間同士での取り組みに加え、本人の社会自立の受け皿となる地域社会への理解啓発に大いに活かしていきたいと報告され、仲間同士で総力を挙げて作り上げた、叡智を集めた自身の濃い自信作です、と紹介して結ばれました。

次に、冊子づくりにも参加した会員の皆さんによる対話劇で、冊子の内容が披露されました。この冊子は、その年代の子を持つ親が相談を持ちかけ、それを「先輩の親」が聞き、受け止め、アドバイスをする形の対話形式の内容となっております。冊子作りの最中や、セミナー後には「軽度の人のことばかりで、重度の子を持つ私にはピンとこない



い」といった感想もありましたが、実は、冊子づくりに参加された方や、今回の対話劇に登壇された方の多くが、重度のお子さんを持つ方でした。『親亡き後、子どもを誰に託せばいいのだろう』、『子どもの将来が心配でならない』という親の不安は、障害の程度や年齢、地域を超えた共通のもですが、とても漠然としています。しかし、この仲間同士での勉強会を通し、漠然とした不安を「明確化し納得」したことで、将来に向けて何をすべきかが具体的に

分かってきました。「親から地域社会へのバトンタッチ」にはいくつものステップがあり、人それぞれの課題や思いがあります。個々の声だけでは届きにくくても、育成会の仲間の声を集めて、国や県、市町村に要望してきたことで、これまでに様々な制度やサービスが実現してきました。そして、地域の中で本人たちが安心して暮らしていくためには、何よりも地域の中で理解が深まることが大切です。セミナーの翌日、細川さんが冊子を使用して、富山県新庄北自治振興会での地域共生講演会でお話ししたところ、「障害者本人や家族の状況を少し理解できた」、「地域の受け皿として何ができるか考えたい」等の感想をいただきました。この「まっちゃん冊子」は、会員皆様のお手元に届きます。皆さんも「松の木プロジェクト」に参加して、仲間と一緒に話し合いませんか? 行政や地域への理解啓発に有効に活用していきましょう!

あつあぶない 子供は動く 赤信号

全国大会

(愛媛県松山市)

令和6年1月27日・28日に愛媛県松山市で第8回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会が開催されました。

コロナ禍を経て、4年ぶりに全国から参集しての大会とあって、会場には笑顔と活気があふれていました。

初日は分科会。第1分科会は「幼少期・学童期・青年期」を中心に暮らしや兄弟姉妹との関りがテーマとなりました。

第2分科会は「壮年期・高齢期」を中心に、高齢化に向けてどんな準備が必要か、家族ができること、地域の支援等について、お手本となるような実践が具体的に語られました。

第3分科会は「障害者理解・啓発と防災」がテーマ。1月に発生した能登半島地震の影響もあり、いざまさかという時に、地域とどのように連携するのか、普段からの障害理解啓発がいかに重要な

会員対象 障害基礎年金 ワークショップ

11月から2月にかけて、障害基礎年金の申し立てが近づく年代の会員さんを対象に、申立書の書き方を学習するワークショップを、4回開催しました。

アドバイザーは、秋に開催した「障害年金学習会」に引き続き、富山市の宮田真知子さんです。

実際の「申立書」と「診断書」を手元に置いて、どのように記入すれば良いのか、記入する上で準備しておくものや、診断書を書いてもらう際の注意点などを詳しく学び合いました。

また、各自、「あんしんサポートノート」をご持参いただき、申立時にどこを記入しておけば役立つのか、また、将来にわたってどのように活用できるのか等も、宮田さんからお話ししていただきました。4回とも皆勤された方、また、

おたがいに 気づかう心で 明るい社会
か議論されました。

特に第2分科会で具体的に紹介された金沢市の「地域生活支援拠点」の取り組みは、将来や緊急時にも備えたものであり、形式的なものではなく、市全体でネットワークを構築し、「よりよいもの」と真剣に取り組む姿は、ただただ羨ましいの一言で、どの地域にも同様の仕組みができると良いと思いました。

2日目は式典と記念講演。富山県からは、高岡市の川口幸宏さんが表彰状を授与されました。おめでとうございます。



東海北陸大会

(愛知県刈谷市)

令和5年10月7日、愛知県刈谷市で第49回手をつなぐ育成会東海北陸大会が開催されました。

愛知県を舞台にしたNHK大河ドラマ「どうする家康」になり、大会のテーマは『どうする育成会』。

これまでの育成会の活動を次世代にどうつなげていくのか、困った困ったの嘆き節ではなく、こんなに魅力がある、楽しい取り組みをしていると、浜松市育成会と愛知県武豊町育成会から、多くの提言がありました。

地域特性を活かすことや、個々のニーズを知る機会を重ねること、多様な年代の人同士が知り合い、情報交換できる楽しい場の提供等、コツコツ地道に活動を継続していくことの大切さが身に沁みました。

本人大会では、ステージでの意見発表で富山の本人たちが大活躍しました！複数名が登壇し、コロ



ナ禍での生活等について意見を述べました。
また、知多半島のご当地アイドル「知多娘」が登場してのミニコンサートやじゃんけんゲームに大興奮！大盛況！
久しぶりに、他県のたくさんの方と会って、楽しいひと時を過ごしました。
大会式典では、いみず苑・前施設長代理の堺進さんが、感謝状を授与されました。
おめでとうございます。

事業所部会 職員研修会

令和5年度の通所事業所職員対象研修会は、全国育成会連合会・政策センター委員長の高木誠一さんを講師に、8月に開催しました。

半日の日程でしたが、虐待防止、意思決定支援、職員自身のアンガーマネジメント、メンタルヘルスなど、大事な要素を盛り込んでいただきました。高木さんの豊富なご経験に基づいた多くの事例、各チームで、前後左右の参加者によるグループワークなど、とても内容の濃い研修会となりました。

参加者からは、
○他法人の職員との意見交換が参考になった
○日頃の支援の悩みを話すことができた

○良い環境づくりを進めたい
○分かっているつもり、知っていないつもり危なさを実感
○ひとつひとつのテーマを、更にじっくりと学びたい
○虐待防止、意思決定支援は繰り返す。



返し繰り返し学びたい
など、たくさん感想をいただき、大変好評でした。
利用者の声を聴くこと、利用者への意識や見方を変えてみることに、利用者のこれまでの人生や生活背景を知ること、職員同士の連携など、これまでの支援を振り返り、これからのように利用者に寄り添っていくのか、深く考える機会となりました。
今回の研修内容を各法人内で共通理解し、今後のより良い支援につなげていただきたいと思います。



人権は かけ声よりも 心がけ

ご寄付をいただきました
ありがとうございます

- * 富山パイロットクラブ様
- * 長岡すみ子の会様
- * 森下 吉光様
- * 細川 瑞子様

能登半島地震義援金

合計 1,586,220 円

あたたかいご支援・ご協力をありがとうございます。
全額、全国手をつなぐ育成会連合会へ送金いたしました。

- **全国大会 (秋田大会)**
令和6年10月12日(土)・13日(日)
新幹線を利用して秋田まで!
- **東海北陸大会 (岐阜県羽島市)**
令和6年9月28日(土)
バスを利用して岐阜まで!
震災をテーマに、緊急時における本人への支援体制や、制度の課題などを学びます。
- **障害フォーラム in とやま (県民会館)**
令和6年7月28日(日)

大会のご案内

全国知的障害児(者)生活サポート協会 「生活サポート総合補償制度」

2024年4月1日より、
発達障がい児者の方も
加入できるようになりました!

(詳しくはパンフレットをご覧ください。)

— 子の生命 守る母の手 みんなの目 —

育成会の動き

期 日	内 容	期 日	内 容
【報告】		4/29(祝・月)	総会【理事・監事・支部代表者会議】 (県民会館)
2/7(水)	富山障害フォーラム会議(聴覚センター)	5/2(木)	富山障害フォーラム会議(聴覚センター)
2/14(水)	施設部会 (サンシップ)	5/8(水)	県障害者スポーツ協会 理事会 (県民会館)
〃	事業所部会 (サンシップ)	5/19(日)	県障害者スポーツ大会 (県総合運動公園陸上競技場)
2/16(金)	障害年金ワークショップ (サンシップ)	5/23(木)	東海北陸手をつなぐ育成会協議会 理事会 (岐阜県羽島市)
2/19(月)	県発達支援・特別支援協議会(県民会館)	5/30(木)	サポート協会理事会 (教育文化会館)
2/20(火)	東海北陸手をつなぐ育成会協議会理事会 (オンライン)	5/31(金)	全国サポート協会 総会 (集合・オンライン)
〃	県障害者雇用推進会議 (県民会館)	6/2(日)	本人部会 (サンシップ)
2/24(土)	松の木プロジェクト 3年目研修会 (県民会館)	6/4(火)	富山障害フォーラム会議(聴覚センター)
2/25(日)	「新庄北・地域共生講演会」 ～「松の木プロジェクト」とは?～ (新庄北公民館)	6/6(木)	県障害者社会参加推進協議会(県民会館)
3/10(日)	本人部会 (サンシップ)	〃	全国障害者スポーツ大会 選手選考委員会 (県民会館)
3/12(火)	運営委員会 (教育文化会館)	6/11(火)	県議会自民党政調会 (県議会)
3/14(木)	全国育成会連合会 代表者・事務局長合同会議 (オンライン)	6/14(金)	県特別支援教育研究協議会 全体研修会 (婦中ふれあい館)
3/22(金)	育成会理事会 (県民会館)	6/21(金)	全国育成会連合会定時総会 (東京都新宿区)
〃	サポート協会理事会 (県民会館)	6/30(日)	富山県手をつなぐ育成会大会 (南砺市福野創造センターヘリオス)
3/26(火)	県障害者施策推進協議会 (県民会館)	【予定】	
〃	富山障害フォーラム会議(聴覚センター)	7/11(木)	障害者相談員 (3障害) 活動強化研修会 (ゆーとりあ越中)
4/12(金)	運営委員会 (教育文化会館)	7/28(日)	障害フォーラム in とやま (県民会館)
〃	育成会・サポート協会 会計監査 (サンシップ)		
4/14(日)	本人部会 (教育文化会館)		
4/21(日)	セーナー苑総会 (セーナー苑)		